

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100027		
法人名	社会福祉法人光風会		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	徳島市下町本丁59-26		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年12月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症利用者の個性と尊厳の保持、安心の実現を目指して、利用者一人ひとりが地域の一員と成るべき取り組みを重視している。その為に全職員が個々を理解し、持てる能力に着目した関わりを持ち、本人の意欲や発揮する為の支援を実施している。家族に対しては、毎月近況報告や季節ごとに『グループホームやまもも便り』を送り、日常生活、心身の状況等の報告を行っている。また随時相談等を受けするなど信頼関係の構築に努めている。更には、地域密着型施設として、認知症について実践から培った知識を地域も皆様に還元すべく毎月最終土曜日に『カフェテラスやまもも』私達の認知症カフェを開催し多くの方に参加して頂いている。また、認知症サポーター養成講座を実施し、地域の方に認知症についての理解を深めて頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療との密な連携を図り、利用者の安心と安全を確保している。また他サービスとの協力的体制を活かし、地域住民との交流や職員の研修の機会を広げている。事業所が、毎月実施している認知症カフェは、地域住民の多くの参加を得て、成果を上げている。また管理者は、地域の団体や中学校、小学校に向いて認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に対する啓発活動を積極的に行っている。管理者と職員は、家族とのコミュニケーションを大切に、毎月の利用者の近況報告や季節ごとの「やまもも便り」を送付して家族の意見を聞いたり、家族会や家族同伴の遠足などを実施したりしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念の中に地域との繋がりを大切にする」とあり職員一人ひとりが理念を所持し、理念を理解した上で実践に繋がっている	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、職員が携帯したりして意識づけを行い、自薦につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の一員であることを常に意識し、地域の札所でのお接待を実践し、地域の小学校の運動会やコミセン祭りに参加し地域交流に努めている	事業所は、近隣の札所で利用者による御接待を実施している。小学校の運動会やコミュニティセンター祭りに参加し、地域との交流に取り組んでいる。また、毎月認知症カフェを開催し、地域住民が集い、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを毎月開催、認知症等についての勉強会や認知症予防体操や手芸を実施し適宜相談に応じている。また、認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用実績、活動報告、自己評価・外部評価結果等を報告している。また、参加者より意見や情報を頂き、サービスの向上に努めている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の現状や取り組み、課題などを伝え、出席者から提言や情報を得て、意見交換を行っている。会議の内容は全職員で共有し、サービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等に於いて積極的に市町村担当者や地域包括支援センター担当者に施設の取り組みの報告を行い、意見等をいながら信頼関係の構築に努め、サービスの向上に繋がっている	職員は、市の担当窓口へ直接出向き、申請書や実績報告書を提出している。その際、話し合いを行い、顔の見える関係を築き、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で毎月実施している「身体拘束委員会」に管理者は参加し、職員全員に周知し身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では、身体拘束に関する研修会を開催している。職員は、法人の拘束対策委員会にも参加し、身体拘束の内容や弊害について繰り返し学んでいる。職員は、細やかな見守りを行うことで、利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも高齢者虐待防止法等に関する勉強会を実施し、防止に努めている。また、他の事業で虐待があった場合は、その事例を元に職員に分かりやすく説明を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で、成年後見制度や日常生活自立支援事業について具体的な例を交えての勉強会を実施している。また、利用者が必要時には活用できる為の支援も実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時等及び改定時には、利用者やご家族に対して適宜説明を実施している。家族からの質問にも詳しく応えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の嗜好調査を実施し、献立作成時や外食等に反映している。家族同伴昼食会や家族会等で意見を伺う機会を設けている。また、面会時等適宜意見を伺っている。	職員は、利用者との日頃の関わりのなかから意見の把握に努めている。また、家族の来訪時や家族会の際に、積極的に話しかけ、意見を聞くようにしている。把握した意見は、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングを月1回以上実施し、職員個々の意見を聴く機会を持っている。また、毎日の申し送り時にも意見を聴いている。代表者に議事録にて報告し、意見の反映に努めている	管理者と職員は、会議やミーティングのほか、日頃から自由に話し合える関係を築いている。職員から出された意見や提案は、全職員で話し合い、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力等や、職場環境・条件の整備等について代表者に伝えている。ワークライフバランスを配慮した勤務体制に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や施設内で毎月勉強会を実施している。また、外部研修に参加できる機会も確保されている。毎日ラジオ体操等も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から他施設との交流に努めている。他施設から制度等の質問にも積極的に対応している。また、他施設の記念行事等にも参加しサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関より情報を貰い、事前に本人の面接を実施している。また、サービスを導入する段階で、本人の要望等を聴き、安心した暮らしを提供できる環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族の困っている事や要望等を伺い、質問等には情報提供に努め、家族との信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人やご家族が「その時」必要とされている支援の見極めに努め、専門職等と連携し、必要なサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を共にし、個々の能力に応じて、職員とともに調理、洗濯干し・たみ、掃除、縫い物等を一緒に実施している。本人はいきいきと若い職員の指導される時もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のきずなを大切にする為、敬老昼食会を実施し、本人と家族そして職員と一緒に外食に出かけて食事をする時間を設け、共に本人を支えて行く関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な知人や親類そして大切な場所を大切に、関係が継続できる支援に努めている。また、馴染みの場所に出かけ為の支援を行っている	事業所では、利用者の友人や知人が来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。また、利用者が以前住んでいた地域の写真を撮影するなど、利用者大切にしてきた人や場とのつながりの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の想いや関係を把握し、必要時は職員が間に入り会話を補佐したり、レクを用いて関わりを支援している。定期的実施する利用者職員対抗ボレー大会も利用者同士の絆を深めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、親しい方と職員で訪問やお見舞いに伺うなど、関係が継続できる支援を実施している。また、適宜相談や支援等にも応じている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を職員全員が関心を持ち、思いを実現するためのミーティングを重ねている。そして必要時にはご家族の協力を得ている	職員は、日頃の利用者との会話のなかから、思いや意向の把握に努めている。意志の表出が困難な利用者は、仕草や行動から思いの把握に努め、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室にも、好きなピアノや好みの家具を置き、馴染みの暮らしの支援を行っている。また、日頃から、本人の思いを大切に、可能な限り意向に沿えるように努めている。プライバシーの配慮にも努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のできる事に着目し、珈琲の好きな方は喫茶店にコーヒーを飲みに行く、ピアノ演奏、洋裁を楽しむなど、一人ひとりに必要な支援を実施し有実した一日を過ごして頂いている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者から想いや希望を伺い、より良い暮らしを目指し、介護計画に反映している。専門職等の意見を伺い、カンファレンスを定期的実施して、それぞれの意見等も介護計画に反映している	事業所では、利用者や家族の意向や職員の気づきを反映した介護計画を作成している。毎日、実践状況を記録に残し、3か月に1回、モニタリングを行い、現状に即した介護計画としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員個々の気づきや工夫については毎日の申し送りで職員間で共有し、毎月実施しているミーティングで検討し、介護計画にも反映している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と通路で結ばれており、利用者の体調の変化が見られた時には、医師に診て頂いている。また、隣接する施設の慰問や行事に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と行事等の情報交換を行い、地域の行事に積極的に参加している。地域の札所に出向き、巡礼者に対してお接待を実施し、利用者が地域の一員として活動できる支援を実施している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療を受けている。その他の専門医等の受診が必要な時には家族と連絡調整を行い、必要な受診が出来る体制になっている	事業所では、利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的な訪問診療や、24時間連携体制を築いている。耳鼻科や歯科など専門他科の受診は、家族の協力を得て支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来てくれ、利用者の状態の変化や気付き等を報告し、助言を頂いている。夜間も必要時相談等が出来る体制と成っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化等が見られた時は、ご家族に報告している。入院治療が必要な時は、情報提供に努め、入院時の支援も実施している。また、病院関係者との関係作りに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階から施設で出来るサービス内容について説明している。利用者や家族に安心して頂く為に随時状態の報告を行っている。また、記録に残し、職員全員で情報を共有し、チームケアを実施している。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族に重度化や終末期においての事業所の指針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状態の変化に応じて、関係者で話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時についての研修を受けている。緊急マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、災害対策会議や地震や水害等を想定した避難訓練を実施している。地域住民の参加も頂き、留意点や対応方法について話し合っている。運営推進会議に地域の消防団長に参加して頂いている。	年1回、消防署や消防分団の指導と地域住民の参加を得て、避難訓練を実施している。また、毎月、夜間想定や地震、水害を含めた事業所独自の訓練を利用者の参加のもと、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを傷つけることが無いように補佐しながら、さりげないケアに努めている。また、プライバシーを損ねないように十分配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの行動パターンや習慣を理解し、利用者の誇りを損なわない支援に取り組んでいる。職員間で勉強会を実施し、確認したり、職員間で相互に確認したりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者の思いや希望が表現できるような関係作りに努め、自分で決める場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の想いの理解に努め、ピアノ演奏・散歩・歌を唄う・珈琲を飲みに行くなど好きな事ができる支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時やお出かけ時に、ご自分で好みの服を選んで頂き、オシャレや身だしなみに対する支援を行っている。適宜、服装の確認を行い、汚れ等が見られる時は、随時交換を実施している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの理解に努め、食事が楽しい時間と成るように努めている。また、デザートには季節の果物や利用者の好みのプリンを積極的に取り入れている。気候の良い時期には庭で野点を実施している。	食事は、外部への発注であるが、週2回の手作りの献立は、利用者の好みや希望を聞き、職員が作成している。利用者は、下ごしらえなど役割を担っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々にあった食事形態で提供している。体調の変化等があった場合はカンファレンスを実施している。必要時は管理栄養士等の指示を仰ぎ、必要な支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアの実施、及び支援を行っている。また、毎週、水・土曜日は洗浄液に付け、清潔の保持に努めている。また、必要に応じて歯科衛生士の指導を受けている。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインやパターンをつかみ、トイレ誘導を実施している。自尊心に配慮しながら個々に合わせたケアに努めている。	職員は、利用者の排泄パターンの把握に努めている。サインを見逃さず、さりげない声かけや誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を毎日記録し把握している。出来るだけ自然排便を促すよう、個々に合わせて乳酸菌飲料、食物繊維が多く摂取できる食事の提供に努めている。また、散歩、リハビリ体操、歩行訓練を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね日程は決めているが、利用者の体調や気分等を伺い、好まれる日や時間帯に入っている。また、柚子湯も実施している。浴室で歌を唄うのを楽しみにされている利用者の支援を実施している。	事業所では、利用者の希望や体調に合わせて、少なくとも週2回の入浴を支援している。利用者の心身状況に合わせ、同一法人の運営する併設の他サービス事業所の特浴を利用について、連携を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調に応じて、何時でも居室に戻り休憩できる支援を行っている。夜間寝付けない利用者には、傍らに寄り沿って暖かい飲み物を提供するなどの配慮を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より薬剤情報についての説明を受け、職員に周知している。薬の副作用や目的も確認している。服用後の変化についても主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や時代背景の理解に努め、能力を発揮して頂き、生きがいや楽しみがあり生活作りを支援している。札所でのお接待や家族同伴昼食会、弁当を持参しての遠足も実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ、外食、遠足、買物等季節の行事で定期的に外出している。行き先については可能な限り利用者の希望を伺い実施している。馴染の場所や希望する場所が遠方場合はご家族の協力を得ている。	事業所では、気候の良い日は、近隣を散歩したり、庭にベンチを置いて外気浴をしたりして利用者の気分転換を図っている。また、買い物やドライブ、家族同伴の外食や遠足に出かけている。車いすの外出も支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より、小遣いを預かり、利用者の希望により自分で買い物やされている。また、近隣に珈琲を飲みに行く事を楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により家族に電話を掛けたり、手紙を書く支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西側の居室には簾を使用するなどの対策をしている。居室・居間・台所・トイレ等、毎日清掃、温度や湿度・換気に気を配っている。壁画や花を飾り、季節を感じて頂いている	共用空間は、清掃が行き届き、花や観葉植物を飾って、気持ちよく過ごせるよう配慮している。廊下などの随所に、ソファや椅子を設置し、利用者がそれぞれ自分の落ち着ける居場所を確保して、ゆったりと過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに様々な椅子を置き、自由に過ごして頂くように配慮している。また、気の合う利用者の居室を行き来できる支援を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染のある物や写真等を部屋に持ち込まれ、心地よく過ごされている。また、ご家族の面会時、居室で利用者やゆっくり過ごして頂いている。	居室には、利用者の使い慣れたものや大切なものを持ち込んでもらい、それぞれの好みの部屋づくりをしている。家族の写真や利用者の作った作品、家族からのプレゼントなどを飾って、心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや浴槽、トイレ等に手すりを設置している。心身の状態に合わせて環境整備し、混乱や失敗があった場合は、職員間で話し合い、利用者の意欲を損ねることなく自立した生活が維持できる支援を行っている。		